



ご自分の「くすり」について知っていますか？

いま使用されている薬は、どんな目的のものでしょうか。
「かかりつけ医が処方するから飲んでいる、何の薬なのかよく知らない」ということはないでしょうか？

病院の薬には大きく分けて ①病気の治療のため
②病気の予防のため
③症状を和らげるため の3つがあります。

- ①は抗生物質や抗がん剤、リウマチ薬など、根本的な治療薬です。
- ②は脳梗塞予防のための血液サラサラ薬、血圧やコレステロールの薬などです。

①②を自己判断で中止するのは危険です。必ず担当医に相談してください。
③は痛み止めや便秘薬などで、ご自身が不要と感じる場合は減量したり中止したりしてもよいことが多いです。こちらも担当医へ伝えましょう。



「多すぎる薬」への対処法

持病が多い方ではある程度仕方のないものです。ただしその場合でも優先順位をふまえて「全体としてメリットのほうが大きいかな？」を考える必要があります。どの薬剤にも副作用の危険があり飲み合わせも重要です。他の病院の処方薬を伝えていないと重複して処方してしまう場合もあります。「他にもこんな薬を飲んでいます」と担当医に伝えましょう。

副作用は「正しく恐れる」

副作用を気にしすぎて、必要な薬を使用しないこともデメリットです。「副作用を過剰に書きたてる情報」には要注意です。うのみにせず担当医に相談しましょう。逆に「医師に言われた通りに薬を飲むだけ」も危険です。目的や副作用などを十分理解したうえで納得できる治療を受けましょう。「くすりのリスクは正しく恐れる」ことが大切です。



「くすり」より大事かもしれないこと

複数の病院で通院していると「全体的に診てくれる主治医」がいないことがあります。「かかりつけ医」は「いつもの薬をもらうところ」ではなく「健康について相談するところ」です。あなたにとっての「最適な全体的治療」について相談でき、必要時には専門医と連携してくれる主治医を見つけましょう。かかりつけ薬局での相談も有効です。受診時は「おくすり手帳」などを必ず持参しましょう。薬剤の恩恵を最大限にするためには患者さんの協力が必要です。

文責：総合内科 脇坂 達郎

